

ゆきの日の話。

作 福井佑梨

所属…北海道大学大学院環境科学院 修士一年(平成二十七年現在)

上演日時 平成二十八年一月二十四日 十五時三十分～(約二十分間)
上演場所 北海道大学遠友学舎

〔登場人物〕

ゆか 大学三年生
女の子 ゆかの思い出の中の友達
母 ゆかの母親
亮介 ゆかの恋人

〔あらすじ〕

『雪ってどこから来ると思ってた？』

そんな会話をふと思い出した、大学三年生のある日、母から手紙が届きました。
なんだか気持ちが悪くぐるぐるするなあ、世界もぐるぐる回っているなあ。

水が雪になるのも、私が呼吸をするのも、家族が歳をとるのも、全部循環の一部。
どんどん変わって、循環しながら進む世界。

それならこんな寂しさも、いつかどこかに還りますように。

SCENE 1・流れる世界

舞台はゆかの部屋。

中央にテーブルとイスが一組置いてある。

上手には玄関としてのハケ口、下手には台所としての机がある。

音楽フェードイン。

ゆか上手から登場。

テーブル上の紙と筆記用具を使ってエントリーシートを書きはじめる。

テーブルの上には携帯。

音楽フェードアウト。

ゆか えーつと、志望理由…は、業界の中でも常に…って嘘くさいなあ。本当は第一志望じゃないしなあ。てかそもそも私、なんでこの業界がいいんだっけ…いやいやいや！そんなこと考えていても始まらないっしょ。頑張らなきゃなあ…

ゆか携帯をいじる。SNS(Facebook)をなんとなく見る。

ゆか みんなは今何やってるのー？

ゆか携帯を見ながらお湯を沸かしに台所へ行く。

女の子 『雪ってどこから来ると思った？』(上手から声だけ

聞こえる)

ゆか舞台中央を振り返る。

ゆか 空からに決まってるじゃん。

女の子 えー、つまらないな。

ゆか なんでよ。

女の子 別に。

ゆか じゃあどこから…

SE【インターホンの音】

ゆかの意識が現実に戻る。

ゆか はーい。

ゆか、宅配された荷物を受け取りに上手退場。

段ボール箱を持って戻ってくる。荷物は母親から。

ゆか お母さんに電話しなくちゃ、な

ゆか荷物をローテーブルの近くにおいて、一息つくと、だらだらしながら携帯でSNSをみる。

ゆか ふえーすぶつく！…あー、ネズミーランド、新しいアトラクション出来たんだ、いいなあ。行きたい。てかなんでサクキ言ってくれなかったんだらう。私も行きたいって話してたのにさあ。っていつ？最近じゃん。彼氏と行ってんの？…まあいいけど。とりあえずイネっと。…えっ長田さんまた新しい携帯買ってる。何回壊せば気が済むんだよ。画面バキバキじゃん(笑)斉藤さん。色んなリンクシェアしてるけど、どこで情報手に入れてんの。普段ぼーっとしてるのになあ。え、りかちゃん留学してるのか。これ何語だよー。アルファベツじゃないし。え、フィンランド？え、フィンランド？ムーミン？…昔は大人しかったのになあ。…何だよみんな楽しそうにー

SE【携帯の着信音】

ゆか、おどろきと同時に気が付いた顔。

ゆか あ！

ゆか、電話に気まずそうに出る。亮介からの電話。

ゆか もしもし。うん、うん、あのね、ごめん、忘れてた。え？うんだから全部。ごめん。や、ちよつとESの締切近くてさ。や、インターンとか。うん。今もういるの？うん、うん、ごめん、ほんと。あ、あのさ5時とかには行けそうだけど…？…

あ、そっか。言ってたね…、や、ほんとごめん。今度から気を付ける。うん、うん。じゃあね。ごめんね。

ゆか、電話を切る。

ゆか はあ…すっかり忘れてた。全部すべてまるツと忘れてた。…最近よくないなあ。今日なんてどっちかって言ったら私から誘ったようなもんじゃん。最低。うーん。(なんとなく携帯を見る。)まあいいか…よくないか。…やめた。

ゆか、携帯をおく。

紅茶を入れに台所に戻る。

辺りを眺めながらぼーっとする。

ゆか …燃えるごみがもうたまってきた。一昨日出したのに。…サツキが私にあんまり連絡くれなくなった。彼氏出来てから。日曜日に洗濯したのにもうこんなにたまってるし。…りかちゃんなんか大学入って明るくなったみたいだし。フィンランドか。昨日掃除機かけたばっかりなのにもう髪の毛落ちてるんです。…私、亮介との約束忘れたことなかったのに。さっきご飯食べたのにもうお腹すいた。

ゆか、紅茶の入ったポットとカップを持って、ローテーブルまで戻って

くる。

ポットからカップにお湯をそそぐ。

ゆか (流れるお湯を見つめながら) 流れる…。(手にお湯がかかる)あちっ。

SCENE 2・母からの手紙

ゆか、段ボールを開ける。

ゆか お母さん。まーたレトルトのカレー(笑)ビスコ。缶づめ、タマゴボーロ…。私がお飯つくってないと思ってる。つくってないけど…。前は好きだったけど、今はもうあんまり好きじゃない、タマゴボーロ。なんか、甘くて。今はもう好きじゃないって、言えないけど。

ゆか、荷物の中から手紙を発見する。

ゆか 手紙？

母、上手から登場。上手手前で手紙を開く。

母 ゆかへ。先月お父さんが腹痛を訴え病院に行きました。胆

石でした。四日に入院して手術しました。無事に終わりもう退院しました。お父さんは七キロ痩せましたが、今は二キロ戻りました。大丈夫です。お母さんは二日間だけ一人暮らしでした。ご飯をつくる人もいない。夜ご飯にはお茶漬けをつくって食べました。

そちらはやはり寒いでしょうね。就職活動もあるだろうけれど、身体に気を付けてがんばってね。

母、上手に退場。

ゆか、手紙を閉じる。

沈黙。

紅茶を飲む。

カップに再び紅茶を注ぎ、流れるのを見ている。

ゆか …燃えるごみがもうたまってきた。一昨日出したのに。…サツキが私にあんまり連絡くれなくなった。彼氏出来てから。日曜日に洗濯したのにもうこんなにあまって。…りかちゃんなんか大学入って明るくなったみたいだし。フィンランドか。昨日掃除機かけたばかりなのにもう髪の毛落ちてるんですが。…私、亮介との約束忘れたことなかったのに。さつきご飯食べたのにもうお腹すいた。

ゆか、タマゴボーロの袋を開けて食べる。

ゆか やっぱり甘くて好きじゃない。

ゆか、手を止める。

ゆか お父さんが入院したなんて聞いてないよ。

SCENE 3・かつての会話

女の子、上手から登場。ゆかに近づく。

女の子 雪ってどこから来ると思ってた？

ゆか 空からに決まってるじゃん。

女の子 えー、つまらないな。

ゆか なんですよ。

女の子 別に。

ゆか じゃあどこから来るって言いたいの？

女の子 知らない。

ゆか 何それ。

女の子 じゃあ冬の息は何で白くなるか知ってる？

ゆか 急に話違うし。

女の子 知らないんだ。

ゆか 知ってるよ。

女の子 じゃあ何？

ゆか 外が寒くて、体温の方が高いから、息の中に入りきらなくなつた水分が見えてるんですよ。

女の子 わかっているじゃん。

ゆか バカにしてるでしょ。

女の子 じゃあ雪はどこから来るの？

ゆか だからなんでその話になるのって。

女の子 わかっているじゃないか。

ゆか わからないのはこっちだよ。

女の子 雪だって水じゃん。

ゆか 水じゃないけど。

女の子 水が、凍つたのじゃん

ゆか まあそうだよ。

女の子 だからね、もしかしたらゆかちゃんの体の中にあつた

水が今ここにある雪かもよ。

ゆか えー。

女の子 なに。

ゆか それはいくらなんでもないでしょ。世の中にいったいどれだけ水があると思ってるの。

女の子 わからないじゃん。

ゆか わかるよ。

女の子 だって循環してるじゃん。

ゆか 循環してるけど、さすがにそれはロマンチストすぎるで

しよ(笑)

女の子 ま、いいけど。特別なことじゃないんだよ？

ゆか 何が。

女の子 変わっていくこと。

女の子、上手に退場。

SCENE 4・母の思いと、循環する世界

母、女の子と入れ替わるように、下手から登場、下手前方で手紙を開く。

ゆかはテーブル上の箱から母からの手紙の束を取り出し、漁るように読み始める。

以下AとBのセリフを同時に。下線部はセリフを重ねる。

後方のスクリーンに宇宙や季節の動植物、人間の生活等の様々な写真が順々に映し出される。音楽。

「A 母からの手紙」

母 ゆかへ。お元気ですか？大学生活にはもう慣れましたか？

ゴールデンウィークの飛行機のチケットをとりましたので送ります。

ゆかへ。サークルの旅行はどうでしたか？そっちは涼しくて気持ちいいだろうね。こちらは連日三十五℃を超えて溶けそうで

す。

ゆかへ。安物ですがかわいいニットを見つけたので送ります。そちらの秋は短いから暖かくして風邪ひかないように気を付けてね。あと夏休みにこっちにおいていった服も一緒に入ります。

ゆかへ。年末は何日に帰ってこられますか？お兄ちゃんは二十
六日から戻るそうです。年明けにみんなでスキーにでも行こう
か。

ゆかへ。二年生はどうですか…？サークルも忙しそうだけど、無理せず頑張ってね。この前駅でまりちゃんに会いました。すっかり大人っぽくなってびっくりしました。

ゆかへ。期末試験はどうでしたか。サークルは忙しそうだけど、夏休みは帰ってくるのかな？八月は第二週の金土日と休みをとったので、もし都合が合えばどこかに出かけましょうか。ゆかが帰ってくるのを楽しみにしています。

「B 変わっていくもの↓循環していくもの」

ゆか 水素は酸素とくっついて水になって、雨になって大地に降って、川になって海に入って、蒸発して雲になってまた雨になって、たまに雪になって。水素、酸素、だけじゃなくて、炭素、窒素も形を変えて回っていて。化学反応、酸化、還元、中和、脱水、アミド結合、エステル化、窒素、亜硝酸、硝酸、ア
ンモニア、アミノ酸、たんぱく質、一酸化炭素、二酸化炭素、

糖、でんぷん、月、太陽、地球、水金地火木土天海…生まれて
死んで生まれて死んで生まれて死んでいく細胞、分裂、受精、
誕生、老衰、春夏秋冬春夏秋冬春夏…

ゆかが帰ってくるのを楽しみにしています。

スクリーンの映像終了。母、上手に退場。

ゆか、ぼーっとしている。

SCENE 5・回想と現在

いつの間にか女の子がゆかの隣に座っている。(シーン4の後半で上手か
ら登場)

ゆか …かえってくるの？

女の子 かえってくるよ。変わるってことはかえってくるってこ
とだって。

ゆか そうなの？

女の子 そうだって。

ゆか そうは思えない。

女の子 なんで？

ゆか だってお母さん、小さくなった気がするの。お父さんは、
会うたびに白髪が増えてるし、笑うとしわが出来る感じとか。
病気、とか。どうしようもなく。どうしようもなく。どうしよ

うもなく。こわい。何も元に戻ることはない。

女の子 元には戻らないよ。

ゆか …。

女の子 還っていくことは変わっていくことだから。

ゆか …。

女の子 変わって行って、グルグルグル、実は循環してる。だか
らいつか還っていく。宇宙が出来たときから今この瞬間まで、
形を変えながら、まためぐってくる。グルグルグル。グルグル
グルグル。

ゆか でも、それじゃあ何も返せない。

女の子 返したい？

ゆか 返したいよ。でも返せない。お父さんに。お母さんに。
還っていかないものだって確実にある。グルグル回ってグル
グル回って服がくたびれていくみたいに、こすれていくみた
いに。私はもらってばかりで。循環しているものだって絶
対どこかで減っていつてる。ロスが出ている。いつかなくな
るって。とまるって。知らないうちに少しずつ少しずつ何か
くたびれていつて、こすれていつて、とまる。

女の子 ちよっと違うよ。

ゆか なが。

女の子 確かにロスはあるけど。まわりながら、進んでるんだ
よ。変わりながら、進んでるんだよ。

ゆか …変わりながら、進んでる…？

女の子 循環しても、元の場所ではないってこと。ボールとか、自転車のタイヤとか、螺旋階段とか、そんな風に、回りながら進んでいくっていうのが、世界だと思うの。

ゆか 世界って…。なんかスケール大きいなあ。

女の子 ゆかちゃんは何か返したいっていうけど、それは形を変えて還っていくんだよ。

ゆか 違う形でお父さんとお母さんに還るの？

女の子 うん。

ゆか そうなのかな。

女の子 還そうとしなくても還ってるよ。

ゆか てきとー。

女の子 ほんとだって。

ゆか つまり…

女の子 うん。

ゆか 私が変わることが、還っていくことなの…？

女の子 そうとも言えるかも。

ゆか じゃあお父さんとお母さんも歳をとっていくだけじゃなく、何かに、還っているのかなあ。

女の子 そうじゃないかな。

ゆか そんなわけないじゃん。

女の子 えー。

ゆか …

女の子 じゃあさ。きつと。

ゆか うん。

女の子 還っていくのはずっと後なのかもね。変わっていくことだけしか、感じられないのかもね。

ゆか そうかも。

女の子 じゃあゆかちゃん、変わっていくことは感じる？どんどん。

ゆか どんどん？

女の子 どんどん。お父さんもお母さんもお友達もゆかちゃん自身も…

ゆか お父さんもお母さんも、友達も、私自身も…

女の子 どんどん変わる。

ゆか どんどん…確かに、ふえーすぶつとか、最近嫌なんだよ。

女の子 みんな変わってるんだ。

ゆか うん。そんなに早く変わらなくてもいいのに。

女の子 でもそもそも人の細胞は早くて一日で変わってしまうんだよ。赤血球だって三ヶ月の寿命なんだよ？そう考えたら

ほら、私たちだって、同じでいる瞬間なんてないじゃん。

ゆか そうなのかもしれないけど。

女の子 見た目は変わらないけどどんどん新しくなっているんだよ。

ゆか そうなのかもしれないけど。

女の子 特別なことじゃないんだよ。それに成長したいって思う

でしょ？

ゆか え。

女の子 成長したい、変わりたいって思うでしょ？

ゆか …

女の子 大人になって成長して、自立したいって思うでしょ？

ゆか そりゃあたりまえじゃん。

女の子 矛盾してる。

ゆか してないよ。

女の子 してるって(笑)成長することはいいことだって言いな

がら周りには、家族には、友達には、自分には、変わってほ

しくない、って思う。それって矛盾じゃん。

ゆか 変わってほしく…

女の子 ないんですよ？

ゆか そうとは言ってる。

女の子 そうなの？

ゆか 私の知らないところで変わってほしくないだけ。

女の子 こども(笑)

ゆか うるさい。

女の子 難しいなー。いいじゃない別に変わったって。何が悪い

の？

ゆか それとこれとは違うじゃん。

女の子 そういうことにしてもいいけど。

ゆか なんだよ。

女の子 べつに。

沈黙。

ゆか …ねえ。

女の子 なに？

ゆか あなた誰だっけ。

女の子 忘れたの？

ゆか まりちゃん？

女の子 (笑)

ゆか なに。

女の子 ほらゆかちゃんだって。変わってる。忘れてる。

女の子、上手に退場。

ゆか、ポーっとしながら手紙を閉じる。

SCENE 6・いつか還る

ゆか 変わって…回って…還る…か…

ゆか、シャープペンシルを持ち、母に手紙を書き始める。

ゆか お母さんへ、お手紙ありがとう。正直びっくりしました。

お父さんはその後回復しましたか？元気ですか？さて、手術のこと、私に教えてもらえなかったこと、ショックでした。私にとっては大切な家族でも、こうして物理的に離れた距離に住んでいることで、家族の変化に気が付くことさえできない。そのことに恐怖を感じました。明日になったらまた何か変わってるのかな、私の知らないところで変わっていつてるのかな。でも、それを悲しいと言ったら、全部が怖くなりそうで……ふう。

ゆか、手紙を書くのをやめて、コートを着て、上手へ。外に出る。(実際は上手から再び舞台中央に戻ってきて、外に出たことにする)
後方スクリーンを上げ、外の雪景色が見える。

ゆか さむ……。雪。

ゆか、雪を掌で受け止める動き。上を見上げる。
上手から亮介登場。ゆか、それに気が付く。

ゆか ……亮介。
亮介 何してんの。
ゆか さんぽ。
亮介 はあ？
ゆか ……来るような気がしてた。

亮介 ほんと？
ゆか うそ(笑)
亮介 だと思った(笑)
ゆか 今日ごめんね。
亮介 ほんとだよね。
ゆか ほんとごめん。
亮介 (笑)何かあった？
ゆか ……？
亮介 最近疲れてるかなあって。
ゆか へえ、めずらしい。
亮介 なにが。
ゆか そんなに変だったかなあ。
亮介 変っていうかさ。
ゆか いろいろな締切が重なってただけ。ほんとごめんね。
亮介 うん。いいよ。
ゆか うん、ごめんね。(上を見上げる)
亮介 (笑)
ゆか 何？
亮介 いや、相変わらずだなんて思ってたさ。
ゆか ……？
亮介 考え事してると、上を見るよね。
ゆか そうなの？
亮介 うん。

ゆか まあそりや癖はあるよ。

亮介 なに考えてたの。

ゆか まあ、いろいろ。

亮介 まあそつか。でも、約束は忘れないでほしいけど。

ゆか ほんとごめん…(上を見る)

亮介 また上見るし(笑)忘れっぽいのもずっと変わらないよな。

ゆか ちよつと、ずっと変わらないって、亮介何十年前から私を知ってるんだよ。親戚のおじちゃんかよ。

亮介 (笑)

ゆか なーんか上から目線で腹立つなあ。私が悪いんだけど。

亮介 まあまあ、人はそう簡単に変わらないってことでさ。

ゆか …。

亮介 ん？

ゆか …(亮介の方を見る)

亮介 …どうかした？

ゆか たぶん…

亮介 え？

ゆか …:それでも、ないよ？

亮介 え？なにが？

ゆか なんでもない。

亮介 え、なににない。

ゆか (笑)それよりせつかく来たならちよつとエントリーシート書くの手伝ってくれない？煮詰まってもうだめだ。

亮介 はあ？自分ですつぽかしておいて手伝えだど？

ゆか お願いします！(笑)あ、タマゴボーロ好き？

亮介 なんで？好きだけど。

ゆか そうなの！？

2人笑いながら上手に退場しようとする。

SE【携帯の着信音】

ゆか、携帯を確認する。母からの電話であることに気が付く。

ゆか ごめん、先に行つてて。(亮介に)

亮介上手に退場。

ゆか、ひとつ息をついて、電話に出る。

ゆか はい、もしもし。うん。届いた。ちよつと、さつき。うん。読んだよ。え、うん。手紙書こうかと思つてた。うん。てか書くわ。……:大丈夫なの？…:そつか。うん、帰るよ。八日に。うん。夜。うん。…:帰る。かえるから、待つてて。じゃあね。(電話を切る)

ゆか、また少し上を見上げ、少し息をついて上手に退場。

音楽フェードイン。次第に大きくなる。

暗転。